男鹿半島・大潟ジオパーク

ジオサイト・リスク管理マニュアル



鵜ノ崎海岸・小豆岩（炭酸塩コンクリーション）



男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会

男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会

はじめに

このリスク管理マニュアルは、私が普段からジオサイトを訪れ、またガイド活動から注意が必要と感じた場所や危険動植物、貴重な植物、及び防災上の観点から地震発生時の津波避難路や避難場所について、ガイドの会の会員の皆様と共有できればと考えて作成したものです。

ガイド活動は、他の何よりもお客様の安全管理を最優先することを肝に銘じて欲しいと思います。どこに危険が存在しているのかしっかり把握し、リスクを回避して見学できるか等、下見を念入りに実施してリスクを出来るだけ取り除いて安全で楽しいガイド活動に繋げたいものです。

ジオサイト内のリスク回避は、このリスク管理マニュアルが全てではありません。個人の経験やセンスによってもリスク回避への見方や感じ方、そしてリスク回避への対策も様々と思います。本マニュアルを参考にし、実際に自分でジオサイトに足を運んでジオサイトの状況を確認していただきたいと思います。

特に、地震発生時の津波避難路は車で避難できるルート、徒歩による避難ルートなど、避難場所も一箇所のみならず複数ある場合もあります。紙面の都合上、全て網羅はできませんので、ジオサイトから最も近い避難路を記載したつもりです。避難路に通ずる地元の人達が使用する近道もあります。このようなルートは自分で出向いて確認し把握しておけば、いざという時に大変役立つものです。

また、記載のジオサイトによっては簡単な説明などを付記しているのもありますが、全て記載したものではありません。ガイド養成講座時に配付のテキストや講師から配付の資料を参考にして下さい。

ジオサイト内での災害やトラブルは、お客様に頼ることはできません。ガイドが全て指示し対処することになります。その上でお客様に協力をお願いすることになります。チョットしたトラブルも、スムーズに対処できるように普段から心がけておきたいものです。いままでの参考となる資料も末尾に添付しましたのでご覧いただければと思います。

このリスク管理マニュアルが、安全で楽しいガイド活動の一助になれば望外の喜びです。

最後に、このリスク管理マニュアル作成にあたって、男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会事務局から校正や製本にご協力いただきました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

令和元年７月
男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会　会長　澤木博之

目次

1　生鼻崎ジオサイト
（１）生鼻崎露頭･･１
（２）脇本城跡･･･１
（３）天神様の細葉のツバキ(菅原神社) ･････････････････････････２

2　寒風山ジオサイト
（１）地震塚･･･３
（２）誓の御柱(五ヶ条の御誓文) ･････････････････････････････３
（３）寒風山山頂及び回転展望台･････････････････････････････３
（４）第一火口及び板場の台、鬼の隠れ里･･････････････････････４
（５）第二火口及び風穴･･･････････････････････････････････５
（６）姫ヶ岳～蛇越長根の稜線････････････････････････････６
（７）滝の頭湧水･･･６
（８）寒風山外輪のトレッキングコース･･･････････････････････７

3　船川港築港ジオサイト
（１）男鹿のまるきぶね･･･････････････････････････････････７
（２）旧船川線防波堤･････････････････････････････････････７
（３）船川港第一舟入場防波堤、船川港第二舟入場防波堤･･････････８

4　鵜ノ崎海岸ジオサイト
（１）小豆岩及び鬼の洗濯板････････････････････････････････８
（２）観察できる化石等････････････････････････････････････９

5　館山崎ジオサイト
（１）金崎･･10
（２）ツバキ自生北限地帯(能登山の椿)･･･････････････････････11
（３）椿の白岩及びグリーンタフ、ろうそく岩、牛岩、荷重痕････････11
（４）双六漁港の火山礫凝灰岩層････････････････････････････13
（５）鬼の足跡、御前落とし････････････････････････････････13

6　潮瀬崎ジオサイト
（１）帆掛島･･14
（２）双子岩、ゴジラ岩、ゴジラの尻尾岩、カメ岩･･･････････････････15
（３）岩脈・岩床、生痕化石、荷重痕、津波石、小規模柱状節理･･････16
（４）ガメラ岩、ポットホール･･･････････････････････････････17

７　西海岸ジオサイト
（１）鬼の投岩、竜ケ島、門前大滝‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥17
（２）冷水川‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥18
（３）舞台島‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥19
（４）孔雀の窟、コウモリの窟‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥19
（５）大桟橋、小桟橋、白糸の滝‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥20
（６）赤神神社五社堂、９９９段石段‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21

８　加茂青砂ジオサイト
（１）不動滝、石仏がん、合川南小学校児童津波殉難の碑、和平の碑‥22
（２）旧加茂青砂小学校舎・屋内体操場‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥23
（３）カンカネ洞‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥23
（４）天ヶ崎‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥23
（５）桜島（ホテルきららか)、鷹ノ巣断崖‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥24

９　金ヶ崎海岸ジオサイト
（１）金ヶ崎海岸の岩脈群‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25
（２）金ヶ崎温泉‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥25

１０　男鹿水族館ＧＡＯジオサイト
（１）男鹿水族館ＧＡＯ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥26
（２）男鹿水族館前の海岸（岩脈）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥26

１１　男鹿目潟火山群ジオサイト
（１）八望台、男鹿大瀑‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥27
（２）一ノ目潟・二ノ目潟・三ノ目潟‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥28
（３）戸賀湾（戸賀火山）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥30
（４）戸賀湾から二ノ目潟経由八望台までのトレッキングコース‥‥‥31

１２　入道崎ジオサイト
（１）鹿落とし‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥31
（２）鬼の俵ころがし‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥32
（３）入道埼灯台資料展示室（入道埼灯台）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥32
（４）北緯４０度モニュメント‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥33

１３　西黒沢海岸ジオサイト
（１）西黒沢海岸‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥33
（２）こはま海岸‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥34

１４　男鹿温泉郷ジオサイト
（１）男鹿温泉郷、鬼の隠れ道……34
（２）野村海岸、湯の尻海岸……34

１５　男鹿のナマハゲゆかりの地ジオサイト
（１）なまはげ館、男鹿真山伝承館、里暮らし体験塾……35
（２）真山・真山神社……36
（３）安全寺の棚田景観……36

１６　安田海岸ジオサイト
（１）安田海岸……36
（２）日本海中部地震津波慰霊の碑、震災復興碑……37
（３）潟西台地……38

１７　砂丘列ジオサイト
（１）天保の飢饉供養塔……38
（２）船越近隣公園……38
（３）横長根Ａ遺跡……39

１８　旧八郎潟残存湖ジオサイト
（１）八郎潟残存湖、防潮水門、八竜橋……39
（２）八龍神社と魚類供養塚……40

１　生鼻崎ジオサイト

（１）生鼻崎露頭






・男鹿市斎場入口付近の国道１０１号線を横断するルートと脇本漁港側から入るルートがあります。脇本漁港側のルートは、一部ヤブと湿地があり草刈りが必要です。また、強風時、護岸堤防上部の歩行は、バランスを崩し海に落ちる危険があり歩行禁止です。
・海が荒れている場合は、海水の飛沫をかぶるので注意して下さい。
・生鼻崎先端をかわすと、露頭が崩れ土砂が海に流れ落ちている個所もあるので非常に危険なので通り抜けは禁止です。
・お客様を引率時は国道１０１号線の歩道をお勧めします。国道横断時は十分な注意が必要です。トイレは無いので前もって済ましておいて下さい。
・露頭見学の最適な区間は、国道１０１号線男鹿市斎場入口～海側歩道（ずい道）～トンネル入口までです。

（２）脇本城跡








・天気がいいと素晴らしい展望が期待できます。崖縁には進入禁止ロープを張っていますが、生鼻崎上部先端は滑落の危険があるので引率時は目を離さないように目配りし十分な注意が必要です。
・東北最大級の山城「脇本城跡」は主に北浦層の上に位置しています。
・危険動植物は、ヘビ類は出没する可能性があります。特に雨上がりで天気のいい日は注意して下さい。ヤブに入らなければヤマウルシ、ツタウルシは大丈夫です。雨天時は草むらを歩くので滑ります。長靴があれば安心です。
・貸切りバスの場合は神社入口、国道１０１号線脇の駐車場で待機させて下さい。車は坂を上って「脇本城跡案内所」付近で４台くらい駐車可能です。

（３）天神様の細葉のツバキ（菅原神社）









・菅原神社に行くルートは２つ、駐車場から石段の登り降りするルートと舗装された道路を歩くか車で行くルートがあります。
・神社の裏道は、場所によってはぬかるんでいるところもあります。
・神社境内ではゴミ等は捨てないようにお願いします。
・簡易トイレは、脇本城跡案内所手前に設置されていますが案内所は無人です。

２　寒風山ジオサイト

（１）地震塚




・夏季は熱中症予防のため、こまめな水と塩分の補給に心掛けて下さい。
・小展望台駐車場に公衆トイレがあります。（冬季間は閉鎖）
・地震塚の石碑に「ツタウルシ」が絡まっているので注意して下さい。

（２）誓の御柱（五ヶ条の御誓文）




・駐車場では事故のないように車の移動に十分注意して下さい。
・「誓の御柱」の手前に公衆トイレがあります。
・寒風山のような低山でも夏場は雷雨等、天候が急変する場合があります。特に、雷は遠くで雷鳴が聞こえた場合でも、すぐに車や建物の中に避難して下さい。（夏場の積乱雲には要注意です。）

（３）寒風山山頂及び回転展望台




・シーズン中は、回転展望台前のロータリーが駐車禁止となる場合があるので、回転展望台下の駐車場を利用して下さい。
・トイレは回転展望台館内にあるので、係員に話して借用して下さい。

（4）第一火口及び板場の台、鬼の隠れ里





・冬場の蛇越長根から第一火口を撮ったもの。妻恋峠火口から流れ下った溶岩流が第一火口を埋め尽くした様子がハッキリ見てとれます。
・「板場の台」からは、眼下に第一火口に流れ込んだ溶岩流による溶岩堤防、溶岩ジワ、特殊な火山地形「鬼の隠れ里・スパイン」を見ることができます。









・第一火口の西側隅にある「鬼の隠れ里」周辺には「マムシ」が生息しているので、むやみにヤブや草むらを歩かないこと。また、「ツタウルシ」が巨岩に絡まっているので注意して下さい。春先の「ツタウルシ」は写真のように若葉が紅葉したように色づく場合もあります。葉の表面はテカリがあり特徴的です。下見時に周辺をよく確認して下さい。
・事故防止のため、「鬼の隠れ里」の岩には、お客様が自己責任で登ると言っても、ガイドが見ている前では絶対に登らせてはなりません。
・寒風山には絶滅危惧種の高山植物がたくさんありますが、高山植物の採取は厳禁です。寒風山一帯は自然公園法により「第一種特別地域」に指定され、高山植物等の採取は事前に許可を申請する必要があります。

（５）第二火口及び風穴





・回転展望台付近から見下ろす第二噴火口と第二噴火口から仰ぎ見る山頂





・夏場の風穴からは約２℃の冷気が出て、かなり冷たく鳥肌が立ちます。男鹿半島唯一の「ヒンヤリスポット」です。
・風穴に降りて来る途中には「ドクウツギ」が自生し、風穴周辺の「トリカブト」と同様、日本の三大毒草です。もう一つは「ドクゼリ」です。果実や葉を手で潰したりしないように注意して下さい。





・風穴手前の岩場には「ツタウルシ」が自生しているので、お客様には触らないように注意喚起して下さい。
・登山道脇はススキ、クマイザサ(ササ)が自生していて、葉で頬や手を切る場合があります。また、サンダル履きはケガの元です。長袖、長ズボン、帽子、軍手等の着用が必要です。（トレッキング時の服装や装備をお願いします。）

（6）姫ヶ岳～蛇越長根の稜線





・ヘビ類の爬虫類は自分で体の体温調節ができないので、雨上がりで天気が良い日は、体温を上げるため道端に出てくるので注意が必要です。
（写真はマムシ・蛇越長根の鞍部分・2017/10/1 撮影）
・蛇越長根は岩場なので非常に歩きにくく、バランスを崩すと転倒してケガをするので注意が必要です。また、「ツタウルシ」も岩に絡まっているので触らないようにして下さい。

（7）滝の頭湧水









・寒風山の「琴川溶岩」と呼ばれる溶岩流の末端に湧き出している湧水です。
・滝の頭湧水は寒風山と密接な関係にあり、寒風山の自然が汚れると滝の頭湧水は飲めなくなります。寒風山の自然の大切さも併せてガイドして下さい。
・滝の頭水源浄水場内で飲食やゴミ捨ては厳禁です。湧水の飲料は積極的に進めていません。今木神社の石段は滑るので注意して下さい。
・トイレは浄水場管理棟にあるので、見学前に済ましておいて下さい。

（8）寒風山外輪のトレッキングコース





・トレッキングルートには「ヤマウルシ」が自生しています。「ヤマウルシ」は枝が赤く、刺も無く「タラノメ」と判別可能です。
・寒風山回転展望台脇～男鹿ゴルフ場入口間の登山道でパラグライダーがテイクオフする場所から少し下ると、旧階段を支えていたボルト・ナットが露出、つまずくと転げ落ちてケガをするので、足元に十分注意して下さい。下見時にピンク色のテープを付けたマーキングポールを立てておくのも一つの方法です。

3　船川港築港ジオサイト

（1）男鹿のまるきぶね（男鹿市民文化会館内エントランス）





・イベント等の開催日は注意すること。館内は混雑しているので、駐車場の使用も含めて見学は避けた方が無難です。
・トイレは使用できます。（月曜日は休館日です。利用施設のルール等を把握しておいて下さい。）

（2）旧船川線防波堤





（３）船川港第一舟入場防波堤、船川港第二舟入場防波堤









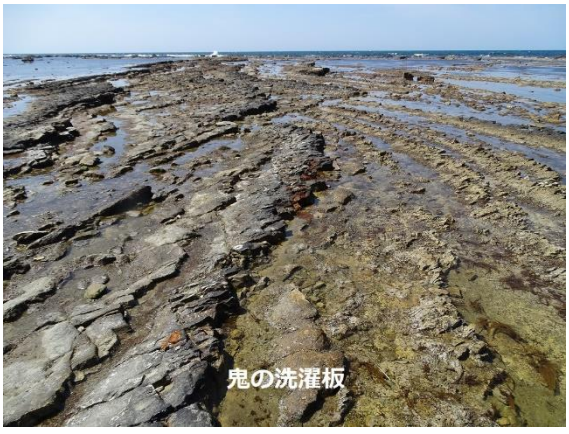
・津波避難場所は道の駅「おが」向いNTTビル、南中学校、船川第一小学校です。

４　鵜ノ崎海岸ジオサイト

（１）小豆岩及び鬼の洗濯板









・小豆岩や鬼の洗濯板の見学時期は１月～４月頃の干潮期が最も適しています。また、見学する小豆岩の場所を幾つか把握して、効率よく歩き見学することをお勧めします。この時期の海風は肌を刺す冷たさです。しっかりした防寒対策と長靴が必要です。
・小豆岩の中にはクジラの骨の化石を含むものもありますが、国定公園内でのタガネやハンマーによる現状変更を行うには、事前の許可が必要です。
・気象庁のホームページ潮位表(秋田) PDF 版（満潮・干潮のみ　約 70KB）を利用すれば１年分の潮汐表を閲覧（印刷）できます。
http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/tide/suisan/pdf_hilo/2018/S1.pdf
・干潮期は岩の上を歩くと、滑って転倒してケガをするので注意して下さい。

（2）観察できる化石等





・鵜ノ崎海岸には魚の骨の化石や魚のウロコの化石が多いです。
・海岸にはガラス瓶の破片や貝類の破片が散見されるので、ケガ防止のため化石を観察する場合は軍手等を着用させること。また、素足での歩行は避けて下さい。
・夏場は観光客の車が非常に多いのでガイド時は、交通事故等に注して下さい。
・日本地質学会から秋田県の石として、珪質頁岩（石油根源岩）は「硬質泥岩」として指定されています。また、鵜ノ崎海岸は「日本の渚百選」、「日本の地質構造百選」に選定されています。
・鵜ノ崎海岸にはトイレ付近に数カ所「ゴミ集積箱」が設置されています。
・夏季は日焼け防止のクリームや熱中症予防のため水分・塩分の補給を忘れないようにして下さい。

【鵜ノ崎海岸公衆トイレ】





・公衆トイレやジュース類の自販機及びスマホ「Wi-Fi」も設置されています。

【女川地区寄りの津波避難路】





・鵜ノ崎海岸の避難路は２箇所あるので各自確認しておいて下さい。
・女川地区の外れにあり位置的には鵜ノ崎灯台直下に避難路入口があります。
・灯台まで階段も整備されて避難しやすくなっています。
・鵜ノ崎海岸ジオサイト説明板から県道５９号線沿いを歩き、約７分かかります。鵜ノ崎灯台避難路入口まで約５００ｍあります。

【県水産振興センター寄りの津波避難路】





・渉水産直売所脇をとおり海岸段丘上部へ出る。途中、簡易柵にロープが張られていますが、階段の整備はされておりません。
・鵜ノ崎海岸ジオサイト説明板から徒歩で約６分かかります。避難路入口まで約４００ｍあります。また、説明版から高台の老人介護施設まで約 1.8km です。

５　館山崎ジオサイト

（１）金崎





・頭上から岩石の崩落もあるので露頭直下に近づかない方が無難です。

・道路下の海岸岩場・波食台に降りてクリンカーを観察するには長靴が必要です。海が荒れている場合は海岸岩場に降りられません。
・車の往来が多いので道路横断時は事故のないように注意して下さい。
・椿地区寄りに駐車スペースがあるので見学時に利用できます。
・金崎には公衆トイレはありません。


金崎・断層面が磨かれ滑らか
(鏡肌)


金崎・クリンカー

（2）ツバキ自生北限地帯(能登山の椿)


椿漁港・能登山の椿



・椿漁港、能登山の周辺一帯は、ヤブツバキの自生北限地帯です。花は３月上旬頃から咲き始めます。青森県の夏泊半島のヤブツバキ自生北限地帯とともに、国の天然記念物に指定されています。
・乗用車は漁港の駐車スペースを利用して下さい。通行量が多いので横断時には事故のないように注意して下さい。（大型バスは駐車できません。）

（3）椿の白岩及びグリーンタフ、ろうそく岩、牛岩、荷重痕(火炎構造)


椿漁港・椿の白岩


椿の白岩

・「椿の白岩」は椿漁港の近くの県道５９号線沿いあり、ガイド時は車の騒音に悩まされることがあります。また、車の往来に注意が必要です。





・潮位が高いとローソク岩周辺は通れません。前日の下見や潮位表により確認してからガイドして下さい。長靴があれば歩行可能ですが、岩場は足元が滑るので注意して下さい。
・グリーンタフ上部にスズメバチの巣が発見されたことがあります。（平成 27 年 10 月 12 日）下見の時によくチェックしておいて下さい。スズメバチ等の巣を発見した時は騒がず速やかに退去して下さい。また、情報共有のため事務局へ報告して下さい。
・グリーンタフ上部から落石の危険もあるので、崖から十分な距離をおいて歩き、崖直下に沿って歩くことは危険です。





・荒天時は、館山崎ジオサイト説明板付近でのガイドをお勧めします。

【館山崎ジオサイト・公衆トイレ】





・公衆トイレは県道５９号線脇の椿漁港館山公園内に１箇所設置されている。
・他の１箇所は使用禁止になっています。

【椿地区津波避難路】





・椿地区「吉祥院」へ避難するルートですが、他に「椿市民センター」と「旧椿小学校グランド」が指定されています。車での避難はできません。
・館山崎ジオサイト説明板から吉祥院入口まで徒歩で約７分かかります。
・椿の白岩ジオサイト説明板から吉祥院入口まで徒歩で約３分かかります。

（４）双六漁港の火山礫凝灰岩層（デイサイト軽石火山礫凝灰岩）





・双六漁港の白い火山礫凝灰岩層では、タフォニ（塩類風化）が観察できます。落石の危険もあるのでフェンス前のガイドとなります。双六漁港側には公衆トイレはありません。椿漁港館山公園のトイレを使用して下さい。バスの駐車は無理です。また、駐車の際は漁師の方に許可を得るようにしましょう。

（５）鬼の足跡、御前落とし(双六館跡)





・「鬼の足跡」まで、館山崎ジオサイト説明板から岩場を歩いて約１５分かかります。満潮時は長靴が必要です。海が荒れている場合は中止して下さい。
・「双六館跡」までは、双六漁港から山道を歩いて１０分程度かかりますが、前

もって草刈りをしないとヤブ漕ぎとなります。
・「双六館跡」先端まで行けば、日本海の絶景を堪能できますが、断崖なので風が強い時は注意して下さい。双六館跡には、眼下の岩礁(三繰島・みくりじま)を照らす「館山崎三繰島照射灯台」があります。

【双六漁港から双六館跡】





・「双六舘跡」までは、双六漁港駐車からフェンス脇の小道を登るルートです。
・崖下を通るので地震による落石の危険性があります。避難路ではありません。





・避難路は双六漁港から県道５９号線を横断、菅江真澄の標柱前の坂道を歩いて登ります。徒歩で約６分、距離は３００m。道が狭く車での移動は無理です。

６　潮瀬崎ジオサイト

（１）帆掛島





・「帆掛島」は「日本の奇岩百景」に登録されています。「帆掛島」自体の岩質は溶結凝灰岩(デイサイト溶結火山礫凝灰岩)で、推定カルデラに取り込まれたブ

ロックと考えられています。
・白丸は「小浜の公衆トイレ」のある場所です。県道５９号線沿いにあり、丁度、帆掛島の正面に位置しています。

【小浜の公衆トイレ】（潮瀬崎にはトイレはありません。）





・「小浜の公衆トイレ」は、潮瀬崎ジオサイト説明板から徒歩で約３分かかり距離は約２５０ｍです。

【小浜地区津波避難路】





・潮瀬崎ジオサイト説明板から、「小浜の公衆トイレ」前を通り小浜地区の津波避難路入口まで徒歩により約６分かかり距離は約４００ｍです。

（２）双子岩、ゴジラ岩、ゴジラの尻尾岩、カメ岩





・潮瀬崎周辺は「日本奇岩百景」に「双子岩」「ゴジラ岩」「ゴジラの尻尾岩」「ガメラ岩」「帆掛島」に門前漁港付近の「ネコ岩」の６つ登録されています。
・「ゴジラ岩」によじ登るお客様がいるので、そのような行為は危険であり、保全

の観点からも適正とは言えませんので注意して下さい。





・潮瀬崎は広い波食台となっています。砂岩や泥岩の上に火砕サージにより火山噴出物が堆積した火山地形です。岩の表面は浸食と風化により鋭い尖った岩肌になっています。転倒すれば必ずケガをするので十分注意して下さい。
・満潮期は海水の水位が上昇するので長靴が必要となります。また、低気圧等により海が荒れた場合は、駐車スペースまで海水が押し寄せて来る場合があるので、道路から海岸へは下りることはできません。
・シーズン中は海岸下に車が溢れ、駐車できない場合もあるので、前もって駐車スペースを検討しておいた方が無難です。(門前・ナマハゲ立像駐車場等)
・潮瀬崎海岸下から門前・ナマハゲ立像駐車場まで約 1.8km あります。





・「生痕化石」周辺は、海浜植物の秋田県・準絶滅危惧種「ウミミドリ」が自生しています。背丈が５ｃｍ～１０ｃｍの小さな海浜植物です。無造作に歩き踏みにじらないように注意して下さい。（花期は５月～６月）

（３）岩脈・岩床、生痕化石、荷重痕、津波石、小規模柱状節理













・転倒すれば必ずケガをします。最短ルートを把握しておきましょう。

（4）ガメラ岩、ポットホール





7　西海岸ジオサイト

（1）鬼の投岩、竜ケ島、門前大滝





・門前漁港に駐車スペースがありますが、シーズン中は観光客や釣り人も多く、駐車できない場合も予想されるので注意して下さい。
・海岸は石がゴロゴロして歩きにくく気配りしながら歩いて下さい。また、海からの漂着物も多く夏場でもサンダル履きはケガの元です。
・海岸山側周辺には「マムシ」も生息しています。特に、８月～９月頃はメスが出産期に入って、腹が膨らんで気が荒く神経質になっているので注意して下さい。発見したら騒がず、しずかに撤退して下さい。海岸線の草むらには入らないように避けて歩く方が無難です。





・「竜ケ島」には渡れません。





・海岸は崖(地震)からの落石に十分注意して下さい。また、指定された津波避難路はありません。携帯は圏外、門前大滝のルートは別紙を参照して下さい。

（２）冷水川





・冷水川の水は門前大滝へと流れています。

・このエリアは国定公園内の第２種特別地域です。植物等の採取には、事前の許可が必要です。一部民有地も含まれているので、トラブルのないようにお願いします。

（３）舞台島





・舞台島は道路から歩いて片道約１５分程度（約５００ｍ）で行けます。ただし、イタドリが繁茂してヤブ漕ぎとなるので、前もって草刈りが必要です。アップダウンの小道なので転げ落ちないように足元に注意して下さい。

（４）孔雀の窟、コウモリの窟





・孔雀の窟は西海岸クルーズで必ず訪れる場所で人気があります。陸からは「芦の倉駐車場」から徒歩で洞窟まで降りて行けますが、孔雀の窟上部が５ｍの垂直な崖になっています。ロープが垂れていますが、一般のお客様の引率は無理です。（ロープ、ハーネスやヘルメットが必要です。）トイレはありません。





・「蝙蝠の窟」への陸からのルートは不明です。
・海からは上陸できますが、一般的な観光客向きではないです。

（５）大桟橋、小桟橋、白糸の滝









・西海岸クルーズは、少し波があれば船首からの波しぶきを浴びるので、前もって簡易な雨具を準備した方が無難です。
・お客様が船酔いした際に、船を汚さないように「おう吐物」を入れるためのビニール袋や手ぬぐい等の準備は必要です。
・クルーズ中は船長の指示に従い、船内を勝手に移動したり、船から身を乗り出すなどの危険行為がないように気配りして下さい。
・救命胴衣は必ず着用させ、出航前にチェックをお願いします。乗船時、下船時は人数の把握も必ず行って下さい。
・トイレは乗船前に必ず済ませて下さい。
・西海岸クルーズの所要時間は約４０分程度です。
・クルーズ料金は一人３，０００円です。（令和元年度）

【戸賀湾・男鹿水族館前クルーズ船乗り場とトイレ】





・公衆トイレの隣の建物が遊覧船チケット発売所です。
・男鹿水族館駐車場から公衆トイレまで約８０ｍです。

【加茂漁港クルーズ船乗り場とトイレ】





・「〇印」がクルーズ船乗り場です。
・クルーズ船乗り場から最寄りの公衆トイレまで約１００ｍです。「カンカネ洞」までは約５００ｍです。
・漁港には駐車スペースがありますが、釣り客も多く利用するのでシーズン中は注意が必要です。

【門前漁港クルーズ船乗り場とトイレ】





・門前漁港船乗り場にはトイレがないので、「なまはげ立像」横の公衆トイレを利用して下さい。漁港へは「なまはげ立像」脇の階段を降りて徒歩約５分くらいです。
・門前漁港は土日・祭日は、釣り客等で混雑して駐車できない場合もあります。

（６）赤神神社五社堂、999 段石段





・９９９段の石段は浮石もありグラつくので注意が必要です。石段が濡れていると滑りケガをします。特に石段を下る時に注意が必要です。登山やトレッキン

グでも上り坂より、下り坂で転倒しケガをする確率が最も高いです。
・五社堂から９９９段の石段を下るのでなく、五社堂脇の登山道を下る方法もあります。トレッキング時に使用するストック等があればケガ防止になります。
・五社堂境内周囲には、３台の「防犯カメラ」が設置されています。
・駐車場から五社堂まで、片道（上り）の所要時間はおよそ１５分程度です。

【五社堂津波避難場所と公衆トイレ】





・五社堂駐車場は津波避難場所に指定されています。トイレは冬期間閉鎖です。
・五社堂駐車場もシーズン中は駐車できない場合もあります。「お山かけ」の真山神社へ抜ける門前側の出発地点になります。

８　加茂青砂ジオサイト

（１）不動滝、石仏がん、合川南小学校児童地震津波殉難の碑、和平の碑









・「不動滝」は、県道５９号線の加茂青砂入口から山側へ不動川沿いを１０分くらい歩きます。
・「石仏がん」周辺は坂道で道路は狭いので車の往来に注意して下さい。

・「和平の碑」は終戦後、昭和２０年８月、大館の捕虜収容所に支援物資を空輸途中の米軍機Ｂ２９が、濃霧のため「本山」中腹に激突、乗員１２名のうち１１名が死亡。犠牲者の慰霊と恒久平和を願い慰霊碑が建てられました。

（２）旧加茂青砂小学校校舎・屋内体操場





・旧加茂青砂小学校舎前は車の駐車スペースがあります。
・日本海中部地震津波殉難の碑から歩いて１分の距離です。

（３）カンカネ洞





・西海岸で最大級の海食洞です。洞窟内の見学は、天井から落石があるので中に入るのは危険です。自己責任でも、ガイドがいる場合は入れてはなりません。
・お客様にリスクがあることをよく説明し納得してもらって下さい。

（４）天ヶ崎





・天ヶ崎は駐車スペースがないので漁港周辺に駐車して歩く方が無難です。
・「石仏がん」もアノーソクレース流紋岩で造られています。

【加茂青砂地区の津波避難路及び公衆トイレ】













（５）桜島（ホテルきららか)、鷹ノ巣断崖





・「ホテルきららか」から鷹ノ巣断崖まで約１．５ｋｍ約３０分かかります。
・大規模にずれた断層を見学できます。トイレは桜島駐車場にあります。

９　金ヶ崎海岸ジオサイト

（１）金ヶ崎海岸の岩脈群









・金ヶ崎海岸はダイナミックな数多くの岩脈を観察できる素晴らしい場所です。
・金ヶ崎海岸及び金ヶ崎温泉へは、２ルートがありますが写真はその一つ、崖に設置のロープを伝って下ります。安全のために登山用ヘルメット＆ハーネスの着用が必要です。岩場の上り下りは落石のためロープ直下は危険です。人数が多いと時間もかかり、リスクも多く一般の観光客のガイドは避けて下さい。
・県道５９号線バス停脇には、車５台前後の駐車スペースはありますが、建物やトイレはありません。
・金ヶ崎温泉バス停から金ヶ崎温泉まで徒歩で約１５分かかります。

（２）金ヶ崎温泉





・金ヶ崎温泉周辺では、大小の黒曜石を観察できます。温泉の温度は約５４度で塩分が多い塩化物泉と言われています。いまは外壁を修理する人もなく朽ち果てていますが、秘湯マニアには「野湯（のゆ）」として有名な場所です。

１０　男鹿水族館ＧＡＯジオサイト

（１）男鹿水族館ＧＡＯ





・男鹿水族館内から火災、地震や津波により避難する場合に「〇印」の２階の連絡通路を利用できます。県道５９号線に出れるので、そのまま避難場所となっている戸賀湾展望公園へ避難して下さい。
・日本海中部地震（1983.5）の津波により大きな被害が出た地域であり、男鹿水族館内の引率もあるので、何回か足を運んで確認しておいて下さい。

（２）男鹿水族館前の海岸（岩脈）





・岩場は歩きにくく、転倒するとケガをするので十分注意して下さい。
・岩脈のガイド時は、お客様が海に落ちないよう声掛けと目配りして下さい。
・男鹿水族館外壁の海側には「球顆流紋岩」を観察することができる岩場があります。海が荒れていると波が押し寄せるので見学できません。

【戸賀湾展望公園・津波避難場所と公衆トイレ】









・津波避難場所は「ホテル帝水」近くの「戸賀湾展望公園」の広場です。
・男鹿水族館 GAO 駐車場から「ホテル帝水」を目指し道路を歩き、崖上の「戸賀湾展望公園」広場まで約６００ｍあります。車では数分で到着できます。

１１　男鹿目潟火山群ジオサイト

（1）八望台、男鹿大瀑



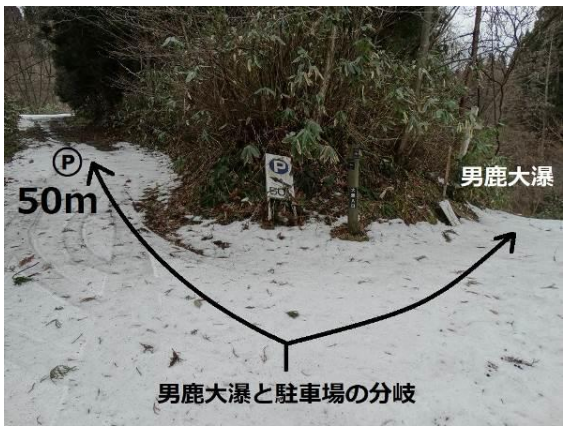


・八望台の公衆トイレは駐車場西側にあります。トイレは冬期間使用停止になっています。
・駐車場から展望台へは県道１２１号線を横断するので、左右の見張りをしっかり行い交通事故防止に努めて下さい。特に入道崎方面から進行の車は視界が悪いので十分注意して下さい。
・八望台展望台のスロープは、雨天時には足元が滑る場合があるので手すりを利用して下さい。

【男鹿大瀑】









・男鹿大瀑の駐車スペースは４台くらい駐車できますが道は狭いです。
・男鹿大瀑は公衆トイレがないので、八望台の公衆トイレを利用して下さい。また、携帯電話は圏外で通話不能です。ルートは末尾の資料を参照して下さい。
・男鹿大瀑へは駐車スペースから約６００ｍ、約２０分かかります。野村川を９回渡るので長靴が必要です。トレッキングシューズでは渡れません。
・滝マニアの間では「穴滝・あなたき」として有名です。
・川の対岸には「ピンク色」のテープを小枝等に取り付けているのでそれを目印にして渡り歩いて下さい。
・台風の後や大雨の後は野村川の水が増水しています。川沿いの小道も増水により消失している場合もあります。また、車で下るルートの一部が落石のため通行できない場合もあります。リスクがあるので下見はしっかり行って下さい。

（2）一ノ目潟・二ノ目潟・三ノ目潟









・一ノ目潟は「国の天然記念物」に指定されています。植物や岩石等の採取には、事前の許可が必要です。また、北浦西水地区の水道水として利用している

ので、湖畔周辺や湖水を絶対に汚さないように注意して下さい。
・一ノ目潟へのルートは２箇所ありますが、いずれも鍵の掛かったゲートがあるので、ガイド依頼時は事務局を通して男鹿市企業局上下水道課、男鹿市土地改良区に連絡して、ゲートの鍵を借りて下さい。
・鍵はガイドする人が借りて返すことになりますので、鍵の紛失等のないように十分注意して下さい。
・男鹿市企業局上下水道課は、男鹿市役所若美庁舎１Ｆです。
・男鹿市土地改良区は、男鹿市役所若美庁舎の北側にあります。
・二ノ目潟は国定公園第一種特別区域です。植物や岩石等の採取には、事前の許可が必要です。尚、湖水の水道水等への利用はありません。
・二ノ目潟入口にはゲートは無く、集落の小路を通り坂道を上って行きます。下図の写真を参考にして下さい。

【戸賀湾・二ノ目潟入口及び津波避難場所】









・避難看板地図の「〇印」が二ノ目潟・八望台へのトレッキングルート入口＆津波避難路です。この入口の駐車場は県道５９号線と平行に集落の中を通っている道路脇にあります。
・浜塩谷神社（津波避難場所）を経由して、二ノ目潟及び八望台へのトレッキングルート（遊歩道）で県道１２１号線へ抜ける（八望台）ことができます。
・塩浜谷神社（津波避難場所）に避難する場合は、車をこの駐車スペースに駐車することになりますが、余裕があれば戸賀湾県道５９号線を男鹿温泉郷方面へ坂を車で走り上れば安全と思われます。また、反対に「ホテル帝水」脇の津波避難場所に指定されている戸賀湾展望公園への避難も可能と思われますが、それぞれ状況に応じて避難して下さい。

【戸賀湾浜中・公衆トイレ】





・二ノ目潟入口（遊歩道入口）、津波避難路入口から写真の戸賀湾浜中の公衆トイレまで約７００ｍあり、歩くと約１０分かかります。車では２～３分で行けます。
・二ノ目潟入口（遊歩道入口）、津波避難路入口から戸賀漁港方面へ歩いて、約３５０ｍで男鹿市役所戸賀出張所もあります。

【三ノ目潟入口】





・三ノ目潟をガイドの際は、一部ルートの草刈りが必要です。駐車場から入口にゲートがありますが、ゲート開閉は必要ありません。
・湖畔を一周できますが引率は困難を極めますので、一般観光客向けではありませんので注意して下さい。（一周は約 1.2ｋｍあります。）
・三ノ目潟～八望台へ抜けるトレッキングルートもあります。春先はフクジュソウやカタクリ、キクザキイチゲなどが咲き誇り一見の価値はあります。
・三ノ目潟は「県の天然記念物」に指定されています。一ノ目潟と同様に植物や岩石の採取には事前の許可が必要です。
・以前、三ノ目潟の湖水は水道水として利用されていましたが、現在は水道水の利用はありません。
・三ノ目潟周辺には公衆トイレはありませんので、前述の「戸賀湾展望公園」にある公衆トイレを利用して下さい。

（３）戸賀湾（戸賀火山）

・津波避難路及び避難場所並びに公衆トイレは前述に記載、省略します。

（４）戸賀湾（浜塩谷）から二ノ目潟経由八望台までのトレッキングコース



八望台側からのルート入口


トレッキングルートからの二ノ目潟

・ガイド依頼がありましたら、トレッキング前に草刈りが必要かどうか事前にチェックして下さい。必要な場合は事務局又はガイドの会へ連絡して下さい。
・八望台側からのルートを歩く場合は、前もって「八望台の公衆トイレ」を使用して下さい。
・八望台から戸賀湾二ノ目潟入口まで所要時間約２０分で距離は1.4ｋｍです。

１２　入道崎ジオサイト

（１）鹿落とし


入道崎・鹿落とし



入道崎・鹿落とし

・天気が良いと眼下に日本海を、また対岸には世界自然遺産の白神山地を遠望でき、素晴らしい景色を堪能できるビューポイントですが、風が強いと崖の先端周辺は体を飛ばされ、崖下に滑落する恐れがあるので注意が必要です。
・ルートを外れると崖の縁周辺には、海岸であっても「ツタウルシ」が這い回っているので注意して下さい。

【西海岸の絶滅危惧種・植物の一部】


秋田県絶滅危惧種ＩＢ類・ハマウツボ


秋田県絶滅危惧種ＩＡ類・エゾツルキンバイ


秋田県準絶滅危惧種・スカシユリ


秋田県絶滅危惧種Ⅱ類・コモチレンゲ

・西海岸は特別保護地区、第１種特別地域に指定されていますので、上記写真の絶滅危惧種の採取や損傷は厳禁です。知っておけばガイドに幅がでます。
・西海岸の海浜植物の情報を知りたい方はガイドの会に連絡して下さい。

（２）鬼の俵ころがし


入道崎・鬼の俵ころがし



・矢印の岩脈を見学する場合は、崖下まで足場も悪く十分注意が必要です。状況を見ながら、お客様の安全を最優先して絶対無理をしないようにして下さい。
・「鬼の俵ころがし」ジオサイト説明板周辺でのガイドをお勧めします。
・周辺は駐車場がなく、道路脇に駐車するので交通事故に注意して下さい。

（３）入道埼灯台資料展示室（入道埼灯台）


入道崎灯台・資料展示室


入道崎・公衆トイレ

・入道埼灯台は「日本の灯台５０選」に選定されています。また、日本海に沈む夕陽は素晴らしく、入道崎は「日本の夕陽百選」にも選定されています。
・２０１６年７月、秋田県男鹿市が「恋する灯台のまち」に認定されました。若者のデートスポットです。（日本財団・総合海洋政策本部・国土交通省）

（4）北緯４０度モニュメント



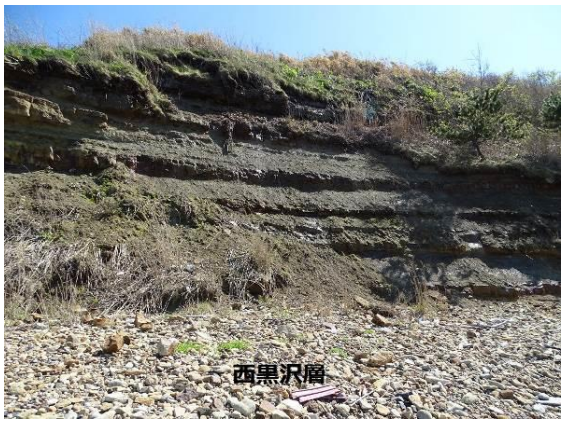


・北緯４０度モニュメントと北緯４０度ラインの通っている標柱は位置が違うので間違いのないように注意して下さい。

１３　西黒沢海岸ジオサイト

（1）西黒沢海岸









・男鹿半島の西黒沢層は、日本海で堆積した地層の中では一番古く約 1,500 万年前のものです。大型有孔虫「オパキュリナ」の化石を産出し、示準化石、示相化石として貴重な化石です。
・津波避難路は車で移動できる場合は戻るルートで高台へ、歩く場合は集落の川沿いの細い道を上り、県道５５号線の高台へ抜けることが出来ます。
・小川があるので増水時は長靴が必要です。また、岩場は常に濡れて滑るので、転倒してケガのないように十分注意が必要です。
・化石を観察する場合は、落石もあり海岸線の崖の直下は危険です。また、小川～小浜海岸へ抜けるルートの見学は避けて下さい。
・荒れて岩場に波が被る場合は、ジオサイト説明板前でのガイドとなります。

（２）こはま海岸





・「西黒沢海岸」から「こはま海岸」へ抜けないようにして下さい。
・「こはま海岸」へ抜ける途中は、写真のように一般のお客様の引率はかなりのリスクがあるので避けて下さい。（株）武田水産脇からのルートがあります。

１４　男鹿温泉郷ジオサイト

（１）男鹿温泉郷、鬼の隠れ道





・「鬼の隠れ道」の上部からポロポロと石灰華の落石があるので注意して下さい。トイレは「五風」を利用して下さい。
・男鹿温泉郷内は道が細いので、車での移動は十分注意して下さい。

（２）野村海岸（ジオサイト説明板は古いです。）及び湯の尻海岸





・野村漁港から海岸へは降りられないので漁港堤防からの見学となります。
・漁港にはトイレはありません。津波避難路はないので車で、地震発生時は直ちに車で高台へ移動して下さい。



湯の尻漁港


湯の尻海岸・湯の尻漁港


湯の尻漁港のトイレ



湯の尻漁港から避難ルート

・湯の尻漁港へのガイドはほとんどないと思われますが、津波避難場所は指定なっています。車で男鹿温泉郷等の高台に移動した方が早いと思いますが、ケースバイケースで適切に判断して下さい。

１５　男鹿のナマハゲゆかりの地ジオサイト

（１）なまはげ館、男鹿真山伝承館、里暮らし体験塾



なまはげ館



男鹿真山伝承館



里暮らし体験塾



（2）真山・真山神社


真山神社


真山神社駐車場・公衆トイレ

（3）安全時の棚田景観


なまはげ大橋


安全寺地区の棚田

・車を降りて棚田を見学することは少ないと思いますが、交通事故のないように走行する車に十分注意して下さい。

１６　安田海岸ジオサイト

（1）安田海岸


安田海岸・安田川


安田海岸

・地層を見学するには安田川を渡ることになります。長靴が必須なのでガイド前にお客様に周知が必要です。春の雪解け時や降雨後は増水しているので、転倒するとずぶ濡れになるので注意が必要です。また、海が荒れている場合は波が川を遡上し渡れません。状況を見て無理をしないで下さい。
・安田海岸には公衆トイレが無いので、前もって済まして下さい。
・風が強いと砂が飛び、口や目に入ります。波打ち際の砂の湿ったところを歩くことをお勧めします。
・津波避難路はジオサイト説明板から、車で高台に移動することになります。





・露頭上部から土砂崩れの危険があるので十分注意して下さい。
・喫茶「珈音」裏手に洞爺火山灰層が露出、許可を得れば見学できます。
・トイレを使用したい場合は近くの民家や「珈音」のトイレを借りて下さい。





・安田海岸の中間付近に崖の切通しがあります。鮪川層上部と潟西層下部の境界付近です。ここは指定された避難路ではありませんが、小川を渡りあぜ道を歩き、国道１０１号線へ抜けることが出来ます。（徒歩約１０分）
・因みに、鮪川層第一亜炭層から安田海岸入口まで徒歩で約１０分かかります。
・ガイド活動中に運悪く地震があった場合は、躊躇することなく直ちに避難して下さい。
・駐車場まで歩き、車で移動可能な場合は速やかに車で高台へ、そのような余裕がないと判断した場合は、上記のルートにより徒歩で避難して下さい。

（２）日本海中部地震津波慰霊の碑、震災復興碑





・国道１０１号線、安田海岸と五里合海岸の中間にあります。道路が狭いので車を駐車の際は事故に十分注意して下さい。周辺にトイレはありません。

（３）潟西台地





・五里合中石地区は、水はけの良い潟西台地（潟西層）を利用し「男鹿梨」を栽培しています。男鹿梨は「幸水・豊水」が主力品種です。

１７　砂丘列ジオサイト

（１）天保の飢饉供養塔





・天保４年（１８３３）江戸時代最大の飢饉の供養塔、場所が判りにくいので下見を十分行って下さい。
・国道１０１号線（船越交差点）沿いローソンの駐車場を利用できます。（トイレ含む）、船越ローソンの駐車場から歩いて約３分くらいです。

（２）船越近隣公園





・国道１０１号線、船越地区の「レゼール男鹿」の裏手になります。公園内にはトイレがあります。国道１０１号線から公園内に入りづらいので十分な下見が必要です。船越近隣公園は標高１５ｍ、津波避難場所に指定されています。近くには、津波避難場所に指定の船越小学校と男鹿工業高校もあります。

（３）横長根Ａ遺跡





・国道１０１号線船越交差点から県道４２号線へ入り、最初の信号機を右折、直ぐ小路を右折すると約２０ｍで公園内にジオサイト説明板があります。
・横長根Ａ遺跡は弥生時代中頃（約２４００年前）の遺跡です。周辺は砂地で住宅地となっていますが、弥生時代は砂丘上で生活を営み稲作が行われていたと考えられています。周辺は住宅地でトイレはありません。

１８　旧八郎潟残存湖ジオサイト

（１）八郎潟残存湖、防潮水門、八竜橋





・八郎潟残存湖（調整池）と海との境界が防潮水門です。干拓地の最も重要な施設で干拓地の生命線です。海水が八郎潟残存湖に入らないように海水面より残存湖水面が高くなっています。防潮水門の管理は自動化されています。
・防潮水門の施設周囲は、フェンスに囲まれ中には入れません。駐車スペースは十分ありますがトイレはありません。
・津波避難場所は、前述の標高１５ｍの船越近隣公園と近くの船越小学校が指定されています。





・八竜橋は船越水道を挟み、潟上市天王と男鹿市船越を結ぶ橋です。橋は 1898 年に開通し長さは約 350ｍあります。船越地区と天王地区の統人達による東湖八坂神社祭の統人行事を行う有名な場所です。本祭の開催日は毎年７月７日です。
・地震発生の際は津波が最も心配され、危険な地域です。状況を判断して直ちに避難しなければなりません。
・津波避難場所は、前述の標高１５ｍの船越近隣公園と、近くの船越小学校が指定されています。





・八竜橋から船越水道防潮水門へは、大型バスやマイクロバスはＪＲ男鹿線陸橋の高さ制限があり、通り抜け出来ませんので十分注意して下さい。

（２）八竜神社と魚類供養塚





・八竜神社は八郎潟漁業者が八竜神に豊漁を感謝し、魚の霊を鎮めるために石碑を建てました。市指定有形民俗文化財になっています。
・船越防潮水門の近くですが、場所が判りにくいので何回か足を運んで確認して下さい。
車の駐車スペースも少なく、周辺にはトイレはありません。団体等のマイクロバスや大型バスの場合はルートが限られるので要注意です。日頃から足を運んでルート等を把握しておいて下さい。
・津波避難場所は、前述の標高１５ｍの船越近隣公園と近くの船越小学校が指定されています。
・河口近くなので、地震が発生した場合は躊躇することなく直ちに避難を開始して下さい。

---　終り　---

2016/02/07　「ガイドの会」研修会義
男鹿市文化会館２Ｆ和室

　下記の課題は、ガイド活動で頻繁に発生する事象です。
どう対処すれば良いのか考えて見ましょう。次回の研修会義で討議しますので各自、考えていることを記入し持参して下さい。

【事例：天候急変＆雷発生対応】
午前中、南海岸エリア・鵜ノ崎海岸ジオサイトのガイド依頼がありました。
お客様は５０代～７０代の男女１０名です。鵜ノ崎海岸でガイド中に天候が急変し、風と雨が強くなりました。取りあえず、トイレの建物に駆け込み雨宿りをしましたが、待っても雨・風も収まりそうにありません。

ガイド中のあなたならどうしますか？
【下準備も含めてのヒント】
１　ジオサイトの下見、又は事前に周辺の代替え施設の有無の検討は。
（ジオサイトよっては緊急避難できる…逃げ込む施設の把握も必要です。）
２　ジオサイト周辺の施設との連携や事前承認や打合せは。（休館日もある。）
（同上…天候悪化に備えて、利用予定であれば事前チェックしておく。）
３　施設の人員の収容能力はどうか。
（同上…天候悪化に備えて、利用予定であれば事前チェックしておく。）
４　施設利用の際、施設内でのお客様へのプログラムはどうしますか。
（係員への問い合わせと、利用時間等足を運んで自分で確認しておく。）
５　プログラムを考える上で、施設内で利用出るものはありますか。
（事前に利用できるプログラム等の下調べが必要です。）
６　天気予報のチェックはしましたか。
（ガイドとして常識です…必ず実施して下さい。）
７　お客様へ事前に天候悪化した場合の対応方の説明はどうするか。
（雨具等持ち物も含めて説明しておくこと。）
８　天候悪化でガイド活動継続をどうするか、現地でお客様と相談しますか。
（お客様の判断でなく、ガイド自信で判断して決定して下さい。）
９　ガイド活動の継続、中止の判断の根拠は。
（お客様の安全確保を最優先して、老若男女問わず天候状況から判断して無理せず中止して下さい。結果的に空振りでもかまいません。）
１０　ガイド活動を中止した場合、お客様に単に「天候悪化で中止します。」でいいですか。
（上記のガイドの判断を踏まえて、ハッキリ中止を伝えて下さい。料金については、明確に定めていないのでケースバイ・ケースで。例えば、料金表では 6,000 円ですが、3,000 円にしますとか、気分的にお客様からの受けは良いと思います。）

１１　中止と判断した場合、時間が余るのでお客様から他の施設（観光施設内）の案内を依頼されたらどうしますか。
（安全面や料金等納得してもらい、臨機応変に対応して下さい。）

１２　その際、行程変更と傷害保険との兼ね合いはどうなりますか。
（ガイドの過失によるお客様のケガの場合は、損害賠償保険を適用。ガイド自身のケガは自分持ち、自分で加入しておくこと。お客様の不注意によるケガの場合、事務局で前もって責任を負いかねる旨確認している。男鹿半島・大潟ジオパーク内であれば損害賠償保険の適用範囲内です。）

１３　夏季のガイド中、雷を伴う場合が頻繁にあります。雷を避ける対策は。
（携帯ラジオから「カリカリ」や「ザシザシ」と雑音が入ったり、ガイド中にゴロゴロとかすかに雷鳴が聞こえた場合は、半径 50ｋｍ以内で積乱雲が発生していると言われ、数分から数十分で接近するので、躊躇することなく、岩陰、地面の窪地、建物、車内等に避難して下さい。）

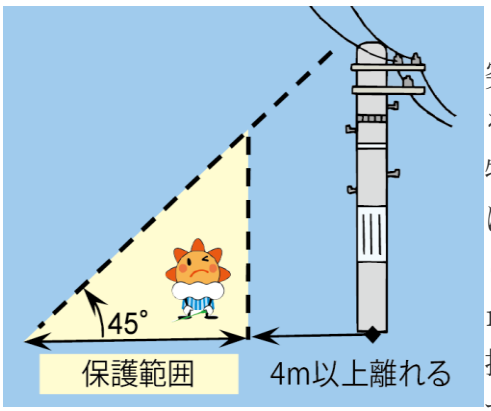
◎対象は「人」であり「自然」です。　刻一刻と変化する状況で、いつも同じと言うことは有りえません。安全を最優先に考えて行動することが大切です。

【雷に遭遇した場合は安全な空間へ避難】

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳等ところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通って落ちる傾向があります。グランドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難して下さい。

鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m 以上離れれば更に安全です。

【安全な空間に避難できない場合の対応】



近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを４５度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から４ｍ以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木のすべての幹、枝、葉から２ｍ以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。　雷の活動が止み、２０分以上経過してから安全な空間へ移動します。（雷から身を守るには ― 安全対策 Q&A ― ：日本大気電気学会 から一部引用）

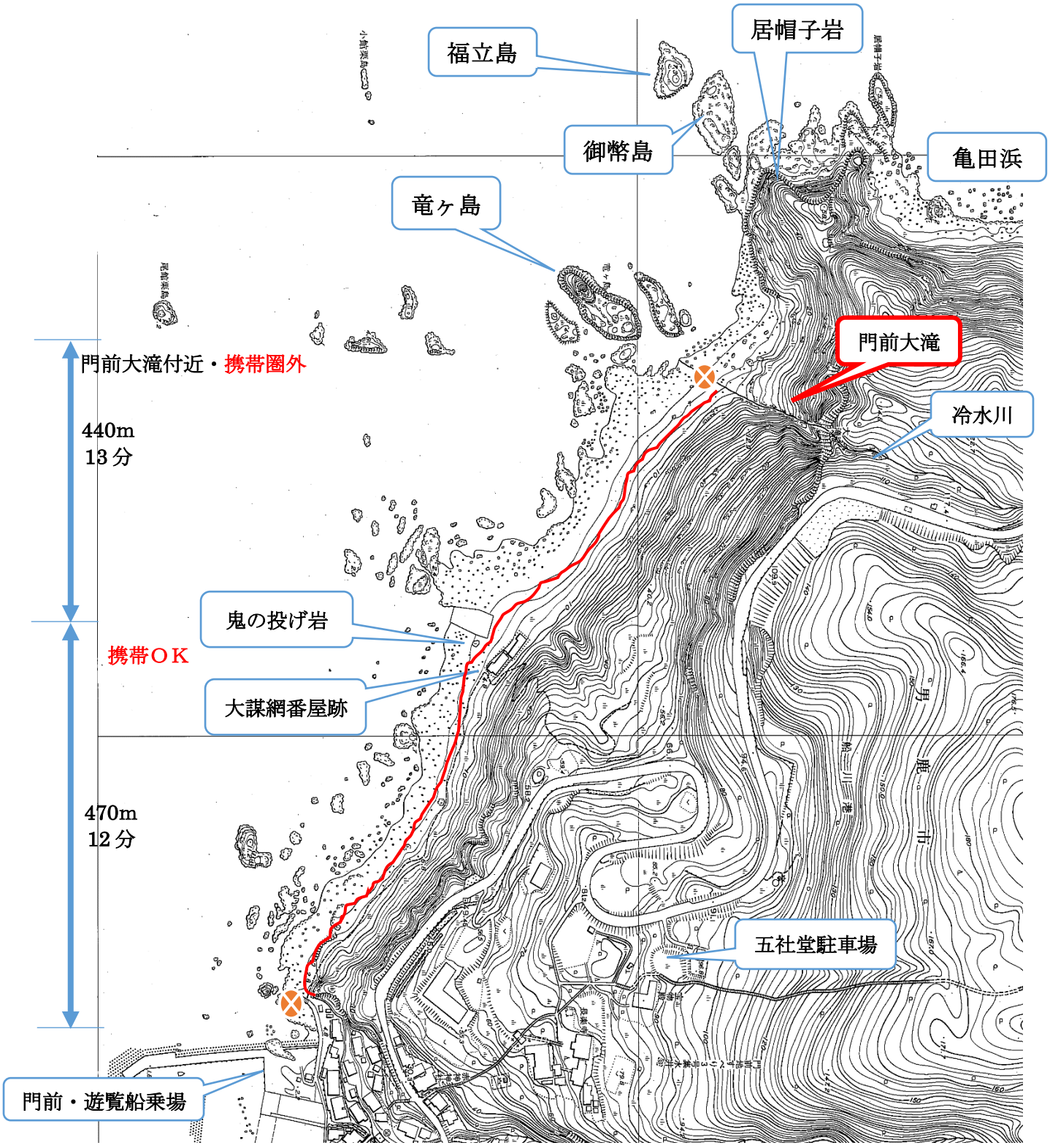
作成：研修担当　澤木博之

トレッキング等の基本的な注意事項

1. 脱水症状にならないよう水を多めに携行して、こまめに飲むこと。（一気に飲まないこと。）塩分の補給を忘れると筋肉のケイレンを起こす場合があります。
2. 山中でトイレに行きたくなったときのために、携帯トイレやトイレットペーパーとビニール袋を持参すると便利です。傾いた斜面で用を足そうとすると、転がって大怪我をすることもあるので要注意。使ったトイレットペーパーは必ずビニール袋に入れて持ち帰りましょう。
3. ビニール袋を携行してゴミは必ず持ち帰りましょう。
4. 下山する際は膝にとても負担がかかるので、膝の弱い方は厚めの靴下とクッションの効いたハイキング・シューズをお勧めします。ハイキング用のトレッキング・ポール（杖）も膝への負担を軽くしてくれます。
5. 帽子、サングラス、日焼け止め、虫除けクリーム、虫除けバンドを持参しましょう。
6. 怪我をした時のために、簡単な救急箱（First Aid Kit）と手の消毒液を持参しましょう。傷口を洗うのに飲料水用５５０㎖のペットボトル１本携行すれば便利です。
7. 国定公園内では、植物の採取は禁止されています。また貴重な植物等を踏みつけないように注意して歩きましょう。
8. ルートが倒木でふさがれていたり、川が氾濫していたりして先に進めない場合は、無理をせずに引き返しましょう。
9. 門前大滝・男鹿大瀑は携帯電話の電波は圏外なので使用不能です。お客様の引率には十分注意が必要です。
10. トレッキング開始前の準備体操（３分間）を行うこと。また、終了後も軽いストレッチを実施して下さい。
11. 注意事項はトレッキング前に必ず伝達すること。
12. トレッキング中の注意の声掛けは大きな声で話すこと。
13. ガイドが複数の時は、連絡用にアマチュア無線用トランシーバーや免許のいらない簡易トランシーバがあれば便利です。
14. 「お山かけ」の際は、地図は必ず携行しましょう。
15. トラブル発生の場合は、お客様の安全を最優先して催行の中止や変更を判断して下さい。

2016/03/06

門前大滝までのルート

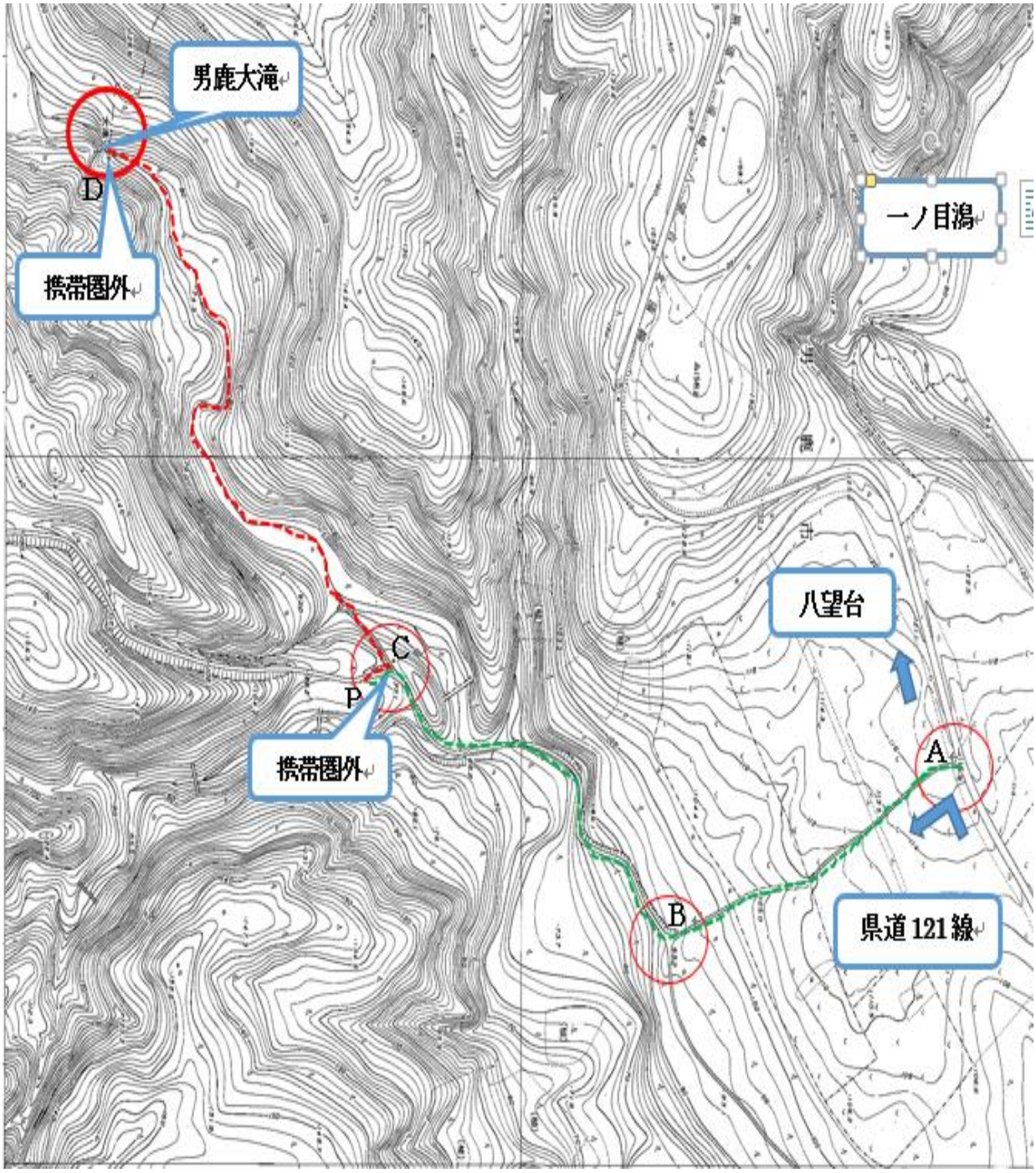


○門前漁港遊覧船乗り場から門前大滝まで所要時間・片道約 25 分・距離約 910m（往復約 1.8ｋｍ　50 分）ガレ場で一部道が不明瞭なのでルートを確実に把握していないと、足場も悪いので時間を要するので注意が必要です。

（男鹿市都市計画図 1/2500 使用一部改変）
作成：澤木博之

2016/02/18

男鹿大滝までの地図



○緑線は車で駐車場乗入れ可能（バスは不可能）、C地点の駐車は車４台くらい。
○赤色線は野村川上流をトレッキング男鹿大滝まで。携帯電話圏外、通話不能。
○野村川上流の川岸を９回渡るので長靴が必要。A～Cまで約 600m、C～Dまで約 600m（C分岐～D男鹿大滝まで約 20 分）あります。

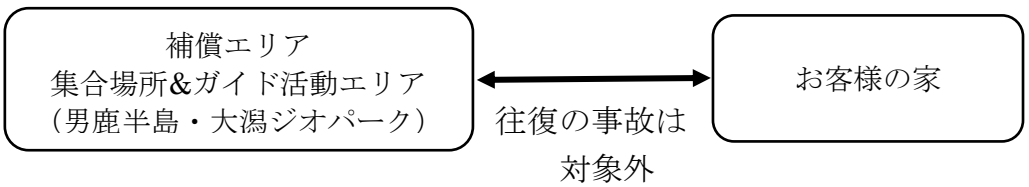
（男鹿市都市計画図 1/2500 使用一部改変）
作成：澤木博之

取扱注意

2018/04/29
男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会

賠償責任保険についての聞き取り

① あくまでもガイドの過失により、お客様がケガをした場合に適用、何でもかんでもお金が出る保険ではない。(過失分を減らす意味では、ガイド前の注意事項や準備体操、ガイド中は常に注意や声掛け等の配慮が必要)
② 事務局経由のガイド依頼のほか、ガイド個人で募集して行ったツアーのお客様も適用となる。(ガイドの会の活動範囲と見なす)
③ ガイド自身の不注意による自身のケガは適用外、自分の傷害保険等で対応すること。
④ ガイド自身の車で他車(お客様)を先導して、ガイド自身が事故を起こした場合は適用外、自動車保険の適用となる。
⑤ お客様の車に添乗して、お客様が事故を起こした場合も適用外、自動車保険の適用となる。
⑥ 普通傷害保険のように自宅から集合場所までの経路の事故も適用になりますか。
(往復の経路は適用外、集合場所から男鹿半島&大潟村干拓地のみ)

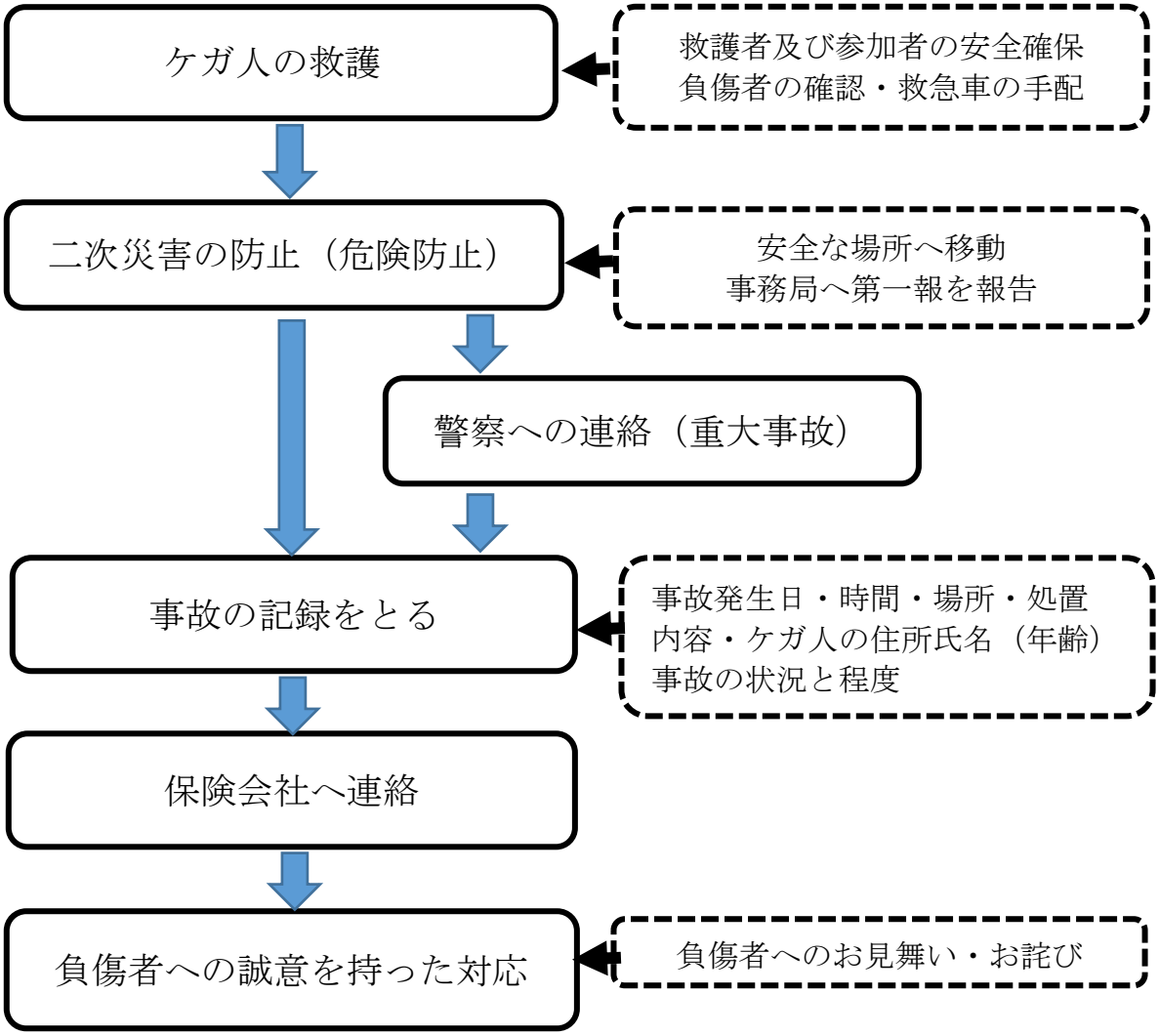


⑦ お客様がケガをされた場合、どのような内容をメモすればいいですか。
(日時、場所、事故の状況、住所、氏名、年齢、生年月日、電話番号、出来れば現場の写真があれば助かる。)
⑧ 保険会社の承認を得ないで勝手に賠償責任を認めたり、また、賠償金の話は絶対しないこと。
⑨ 賠償責任保険の最高額は、対人対物共通で1回で1億円、1名でも10名でも1億円(お客様のカメラを落として壊した場合は対物が適用になる。)
⑩ 仲村保険サービスでは、示談交渉はしないことになっているが、助言はするので勝手に示談交渉はしないこと。(仲村保険サービスと相談しながら進めること。)
⑪ 仲村保険サービスへの連絡は事故の処理後でよい。
(土曜・日曜でも連絡可能、お客様相談センター　0120-071-281　)

相手者:仲村保険サービス　斎藤
聞取者:ガイドの会　澤木博之

平成２９年４月２９日
男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会

事故が発生した場合の基本的対応



＊自然体験活動指導者・安全管理ハンドブックより一部引用

【参考】

消防・救急　　119 番
警察　　110 番
災害伝言ダイヤル　171 番
ジオパーク推進班（事務局）0185-24-9104　fax 0185-24-9200
ガイドの会会長　　090-2271-0005 fax 0185-24-4762
保険会社　仲村保険サービス　　0185-35-2155
最寄り医療機関　男鹿みなと市民病院　0185-23-2221（代）
保護者・代表者・家族等